

## (準備研究)

# 成人脳性まひ者のキャリア形成の実態と支援可能性

丹野 傑 史\*

Takahito TANNO

### 研究実績の概要

#### 1. 脳性まひ者のキャリア形成の現状と課題

##### (1) 脳性まひ者のキャリア支援可能性—通常学級出身者のライフヒストリー分析—

(長野大学紀要第39巻第3号, pp.21-28)

1) 研究の目的: 一般就労をしている脳性まひ者のライフヒストリーおよび現在の職業生活上の実態や課題について聴取をした。ライフヒストリーを分析し、困難状況が顕在化した時期、そこへの周囲の対応状況、現在の状況との差異等について分析し、成人脳性まひ者に対するキャリア支援、特に困難状況に対する支援の方法について検討するための視点を得ることを目的とした。

2) 研究の概要: 通常学級で学んだ脳性まひ者1名のライフヒストリーを分析した。通常学級では、様々な支援や配慮が行われていたが、自立活動等障害による学習上又は生活上の困難の改善に繋がる指導は行われていなかった。これらの課題が、就労後に様々な課題として顕在化しており、キャリア支援の可能性として、①身体面の変化に対するモニタリング、②認知面に対する支援、③職場への働きかけの3点があげられた。また、対象者の語りからは「小中学校時代の障害への気づき(自覚)と対応」の重要性が指摘され、合理的配慮の提供が義務づけられ、通常学級で学ぶ障害のある児童生徒に対する配慮や支援が充実する可能性がある一方で、自立活動に相当する指導の重要性が示唆された。

3) 研究の意義: 2つの意義を指摘できた。1点目は、身体モニタリングを通じ、脳性まひ者の(特に身体

面)に関わる課題を可視化することによる意思表示支援の必要性である。2点目は、キャリア形成支援を意図した通常学級における自立活動を展開することの重要性である。

##### (2) キャリア教育と自立活動

～理念・内容から見た親和性～

(長野大学紀要第39巻第2号, pp.33-40)

1) 研究の目的: キャリア教育の現状と今後の方向性について概括した上で、自立活動の内容である「6区分」と、キャリア教育を通じて身に付けるべき力とされる「4領域8能力」および「基礎的・汎用的能力」の相違について比較した。そして、通常学級におけるキャリア教育としての自立活動の実施可能性について検証を行うことを目的とした。

2) 研究の概要: 自立活動の「6区分」とキャリア教育における「4領域8能力」「基礎的・汎用的能力」の相違について比較し、通常学級におけるキャリア教育としての自立活動の実施可能性について検証した。その結果、自立活動の「6区分」は、①キャリア教育とほぼ同じ内容、②キャリア教育の基盤となる内容、③障害に応じた指導が中心となる内容に分類された。①を中心にいかに個に対応するか、②について学級全体への指導の観点として、より指導の段階を細分化する視点を提供できるかが、キャリア教育として自立活動を展開していく上でのポイントとなることが予想された。

3) 研究の意義: 自立活動の観点を取り入れることにより、より個に内在したキャリア教育の展開可能性

があることが示唆された。一方で、個に着目することについて通常学級で行うには限界があるため、その展開方法については更なる検討や試行が必要である。

## 2. 肢体不自由(脳性まひ児)者のイメージ調査

### (1) 大学生の肢体不自由者に対するイメージ

- 1) 研究の目的: 肢体不自由に関するイメージ調査を実施し、障害の捉えや支援の必要性等について明らかにする。
- 2) 研究の概要: 日常生活動作では、一部介助が必要と考えられている傾向にあり、着替えのみ他の日常生活動作と比較して、全介助が必要と考えている人が多い傾向であった。移動と書字は、なんらかの補助があれば可能であると考えの人が多かった。会話は複雑なものだけでなく、簡単な日常会話ならできると考える人が多かった。日常生活場面や学習場面に

おける支援の必要性については、多くの学生が必要と回答する傾向にあった。肢体不自由者に対するイメージとして全体的に「支援を受ければ自力できる」との回答が多く、あまり明確なイメージは持っていない可能性が示唆された。

- 3) 研究の意義: 肢体不自由者に対する合理的配慮が円滑に行われるためには、ある程度の障害者像が明確であることが必要だと思われる。今後は受け入れる側の視点からの場面や申請内容による支援の寛容度、支援を行う側の具体的なニーズを明らかにすることで、より円滑な合理的配慮の提供要件について検討していく。
- 4) 付記: 当該研究については、2017年度長野大学教職課程研究報告会において、研究室の学生が発表を行った(西山理歩・上條ほのか・松平理沙・小川夏帆・加藤忍・小林愛美・丹野傑史(2018)大学生の肢体不自由者に対するイメージ)。

## 研究発表(平成29年度の研究成果)

(雑誌論文) 計( 2 )件

著者名	論文標題				
丹野傑史	脳性まひ者のキャリア支援可能性ー通常学級出身者のライフヒストリー分析ー				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
長野大学紀要	無し	第39巻3号	2018	21-28	

著者名	論文標題				
丹野傑史	キャリア教育と自立活動ー理念・内容から見た親和性ー				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
長野大学紀要	無し	第39巻2号	2017	33-40	